

笑顔と歓声が沸きあふれているフレンズ

<ストリートチルドレンの教育と職業訓練の場>

中能孝則

The Restaurant FRIENDS

今日の昼食は、レストランフレンズであった。通された部屋に隣接する広場からは大きな笑い声と歓声が沸き起こっていた。「元気な子どもたちだな」と思わずカメラを向けたら、店のリーダー格の人が来て写真は撮らないでほしいとのことであった。

通訳の方に伺うと、ストリートチルドレンの子どもたちの居場所であるとのことであった。もちろん写真を撮ることはしなかったが、あまりにも賑やかで、私がイメージしていたものとはほど遠く屈託のない明るさであった。



ここのレストランのスタッフ全員が、フレンズの出身で、正スタッフのTシャツにはTeacher。見習い生のTシャツにはStudentとプリントされている。

そして、全てのスタッフがいきいきと働いていた。過去の歴史はどうであろうとも、前向きに生きている姿に感動した。

窓の外の子どもたちも、このような先輩の姿を見て明るく頑張っているのではないだろうか。



活き活きとした絵

レストランの中の絵は撮影してもよいとのことだったので、写させていただいたが、どの絵もいきいきとしていて元気が良い。何よりも楽しそうである。

自分が生死をさまよう厳しい境遇にある子どもたちは、決して明るい絵は描かないと聞いたことがあったので、ここにいる子どもたちは、過去には今まで以上に厳しい境遇にあったにしても、今は明るく生活しているのではないだろうか。



(<http://www.streetfriends.org>)

フレンズの仲間たち

プノンペン市内には約 1,000 人のストレートチルドレンが登録されていて、そのうちの 800 人がこのフレンズにいるそうです。(カンボジア全体で何人いるかは判らないとのことでした)

対象は赤ちゃんから 25 歳までで、1 年生から 3 年生までは施設内の学校に通い、4 年生以上は市内にある公立の学校に通うそうです。そして、宿舎は別にとこにあり、毎日車で移動しているとのことでした。

大人になると(年齢は定かではない)バイクの修理工、自動車修理工、溶接工、料理人、美容師、理容師、化粧インストラクター、縫製職人等になるためのいろいろな職業訓練の準備がされていて、自立を目標に日々頑張っているとのことでした。

フレンズの入り口は実に明るい

レストランの隣にフレンズの入り口があったが、私たちはアポイントをとっていなかったため、中に入ることはできなかった。しかし、入り口付近は実にはぎやかで、しめっぽい雰囲気はまったく感じなかった。

この運営は NGO とのことであり、今のところ国からの援助は無いとのことでした。聞くところによると日本人の方でこのような施設を運営されていらっしゃる方もいるそうですが、詳細にはわかりませんでした。



さらにショッピングセンターも併設

フレンズの中に入る事はできなかったが、隣に併設されたショッピングセンターをのぞかせていただいた。



中にはアクセサリ、子どもの洋服、バッグ、本、ポスター、小物など、ところ狭しと並べられていた。

全てフレンズの手作りとのこと、アイデアに富んでいた。

ちなみに右の写真はよだれかけのことで、私も孫への土産をひとつ増やすことにしました。(ちなみに 7 ドル)

